

ごあいさつ

この度、当財団内に愛生館文庫を創設致しました。

令和元(2019)年は愛生館創業から130年の節目に因み、愛生館の本質・原点を風化させる

ことなく後世へ伝承していきたいと願う、かねてからの想いを実現させていただきました。ここには、社宝『大鏡』も保管され、愛生館薬業100年を越す生業の刻を、今に奏でてくれます。

一人でも多くの方々に親しまれる館となりますよう祈りつつ、今後はさらに、公益財団法人として果たすべき役割を真摯に受けとめながら、未来への歩みを続けてまいりたいと考えております。

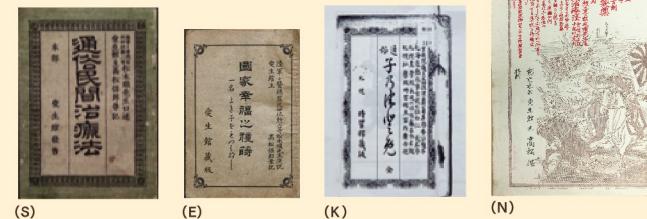
当ギャラリーへご来館くださる皆様には、ご自由に観覧いただきますと共に、何かしら胸に響くものを感じて頂けますなら幸いでございます。

令和元(2019)年10月

公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団
理事長 秋山 孝二

沿革

明治21(1888)年 愛生館創業。東京市神田区駿河台北甲賀町三番地。
明治24(1891)年 初代秋山康之進、愛生館北海道支部長として着任。一秋山愛生館創業年
大正14(1925)年 初代秋山康之進南1条西5丁目に秋山愛生館倉庫を建築。
昭和5(1930)年 12月20日初代秋山康之進、死去。秋山喜助、二代目秋山康之進を襲名。
昭和10(1935)年 2月28日初代秋山康之進の妻ナカ、死去。
昭和23(1948)年 株式会社秋山愛生館設立。一創立記念日11月3日—
昭和32(1957)年 2月18日二代目秋山康之進、死去。秋山恒、三代目秋山康之進を襲名。
昭和36(1961)年 秋山愛生館本社ビル新築落成。愛生神社鎮座。
昭和39(1964)年 秋山宏専務編集長により、社内報「愛輪」創刊。
昭和51(1976)年 秋山宏、副社長に就任。
昭和54(1979)年 秋山喜代、四代目社長に就任。
昭和56(1981)年 三代目秋山康之進(会長)、歎四等旭日小綬賞受章。
昭和57(1982)年 8月27日二代目秋山康之進の妻テツ、死去。
昭和58(1983)年 4月8日三代目秋山康之進、死去。
昭和62(1987)年 秋山喜代、秋山記念生命科学振興財団、設立。
平成3(1991)年 創業100周年記念誌「北のいのちとともに」刊行。
平成4(1992)年 秋山孝二、五代目社長に就任。
平成8(1996)年 11月25日、㈱秋山愛生館、札幌証券取引所に新規上場。
平成9(1998)年 2月9日、㈱秋山愛生館、東京証券取引所市場第二部上場。
令和元(2019)年 2月10日、四代目社長秋山喜代、死去。
10月1日「愛生館文庫」を秋山財団1階に開設。



愛生館文庫開館時間◎
平日10時～16時頃迄

問い合わせ◎
愛生館文庫(秋山財団1階ギャラリー)
TEL／090-2056-4970(山下)
FAX／011-612-3380
E-mail／bunko@akiyama.foundation

©2019 POINT LINE pylon Inc. tatt Inc.

愛生館文庫

Aiseikan Bunko Gallery



北海道で108年続いた医薬品卸業(株)秋山愛生館のルーツは、明治二十一年創業の高松保郎・館主、松本順・顧問による愛生館事業に、その原点があります。

愛生館北海道支部長として札幌に着任した秋山康之進は、愛生館のこころを自らの名前に掲げ、秋山愛生館として独立し、医療が届かない山間僻地への薬の供給や病人の救済、貧者・弱者への施薬、民間の衛生・治療の支援を最優先としながら、愛生館三十六方製剤の普及に奔走しました。

また、北海道開拓を担う屯田兵の後方支援、入植開拓移民の健康維持・向上、さらには、十勝・士幌町「佐倉」の開拓にも惜しまず尽力を傾けると共に、(株)秋山愛生館の礎を築き上げました。

所在地◎〒064-0952

札幌市中央区宮の森2条11丁目6-25
公益財団法人秋山記念生命科学振興財団